

新しい悦びの時代へ向けて

NPO法人
くだけけ会代表
和田重良

1948年小田原市生まれ
くだけけ生活舎での共同生活（人
生科や農作業）をとおして、青少
年や家庭の生活にさまざまなメッ
セージを送っている。



人生においても、教育を考えるためにも、一人一人にとって「今をどう生きるか」が大切なことであることは言うまでもありません。
過去を悔んで、また未来を憂いてばかりでは新しい時代を生み出せません。
今日からイキイキと生きましょう。何歳からでも…。

才三回 人のせいにしてないか

最近頃は歳をと
つてきたせい「平
和」に徹するとい
う。す。

「平和」に徹してみる

テーマに絞って生きています。正直言つて（本当に正直に言うのですが）今まで
そうすると「戦争」なんかもつてのほかですが、何となく分つていようように言つていたことの本当の

内容や意味が最近ハッキリとしてきたような気がしています。ようやくこの一二年は「人生の入り口」に立てたような気がしているのです。それは「平和」に徹してみると、人間が最も苦手としていることに気づいたからです。

「人間が人間となるために」どんな道があるのか、どんな課題があるのか、教育や福祉はどんな人間観に至ることがいいのか、そのすべてが「平和」に徹するところから見えてくるのです。ほんとうに「くだけけ」的な人生や教育をテーマにして来て「よかつたね」というところです。

手柄は誰のもの

「平和」でないものを反省してみると、人のやることや意見に対して否定から入って対応してしまう。攻撃的になつてしまふ。そこにはくだけけで提唱している愛言葉「よかつたね」「よく来たね」とは正反対の心持ちがあります。

よく考え直してみると「手柄は自分のもので、都

合の悪いことは相手原因」とつい思つてしまふのです。

自分を偉そうに見せるために「ダメだ、あんなヤツは」なんて言つてしまふことだつてあります。「手柄は私で、ダメなのは相手だ」という心持ちの中に「教育」を根本から間違えてしまふ原因があるのです。人の悪口ばかり言つていると、自分のグルリにはよい人はいなくなつて、気がつくとなぜか悪者しか残つていないということになってしまいます。

子どもでも大人でもほんとうは人間みな「よくならうとする力」を持つています。失敗したつていいのです。

努力と結果

「相手のためになつているか」と考え直してみる必要があるのです。人の争いごとのキッカケはたいいて「自分の利益」ということではないでしょうか。努力というのは自

分の利益のためにするのが当たり前で、そのために正

論や正義を振りまわすこともあります。

自分の利益と相手の利益が衝突してしまうことがあると争いになるのです。

そんな時、ふつと力を抜いて「これは相手の人のためになつていようか」と見直してみると、同じ努力をするのにも結果がとていいことになりま

す。子どもにもを教えたり、夫にことを伝えたりする時も「相手のため」という努力を少ししてみるだけで結果は大きくかわります。

ただ、引きこもりの子を持つ親の中には、「子どものためを思つて」しているつもりがまったく「自分の思いのまま」又は「自分の気がすむように」というところからハズレることのできない人も多くいます。自分勝手な「相手のため」では益々まずいとい

う時にはキチンと、自と他ということを冷徹に確かめてみる必要があるつていうことです。

自分で引き受ける運命

自分のことは自分で引き受けるよりしよがないのです。誰にも代わつてもらふことはできません。自分の代役はいないのでから。それなのに、何でもかんでも人のせいにしてダダをこねるといふ人もたくさんいます。

そういう人の様子を見てみると「相手のためになつているか」とか「相手を育てる」という視点はひとつもありません。ですから丁度、自と他が真逆になつていのです。自分中心の世界がグルグル回つていのですから、他の人も「自分」だと思つてい

るといふことを忘れてしまひます。自分で自分の運命を引き受けることではじめて自分の道がひらけてきます。

そして、自分がやるべきことは「相手のためになつているか」「相手を育てること」です。

本当に「相手を育てる」とい

